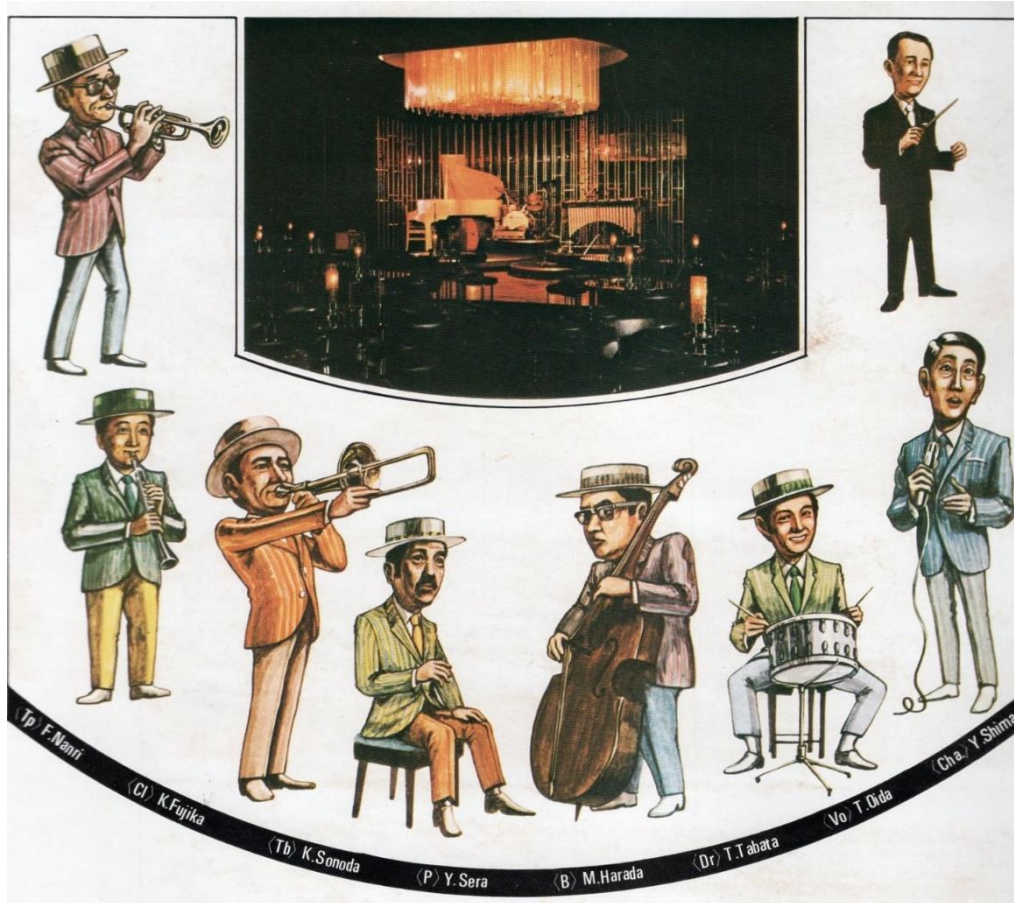


ミッドナイト・セッション・イン・フェニックス ライブ



原田 政長



田畑 貞一



笈田 敏夫



志摩 起夫



南里 文雄



藤家 虹二



田畑 貞一



世良 譲

A

1. セントルイス・ブルース (4:11)
ST. LOUIS BLUES
(William C. Handy)
2. ブラック・アンド・ブルー (4:35)
BLACK AND BLUE
(Lou Handman, Samuel M. Lewis, Joseph Young)
3. 嘘は罪 (3:13)
IT'S A SIN TO TELL A LIE
(Billy Mayhew)
4. 捧ぐるは愛のみ (2:59)
I CAN'T GIVE YOU ANYTHING BUT LOVE
(Jimmy McHugh, Dorothy Fields)
5. アラビヤの酋長 (7:43)
SHEIK OF ARABY
(Ted Snyder, Harry B. Smith, Francis Wheeler)

B

1. ハニーサックル・ローズ (8:33)
HONEYSUCKLE ROSE
(Thomas Waller, Andy Razaf)
 2. ケアレス・ラヴ (3:10)
CARELESS LOVE
(William C. Handy, Martha E. Koenig, Spencer Williams)
 3. アレキサンダーズ ラグタイム・バンド (3:25)
ALEXANDER'S RAGTIME BAND
(Irving Berlin)
 4. 聖者の行進 (4:25)
WHEN THE SAINTS GO MARCHING IN
(黒人霊歌/Negro Spirituals)
- Trumpet: 南里文雄/Clarinet: 藤家虹二
Trombone: 田畑貞一/Piano: 世良譲
C. Bass: 原田政長/Drums: 田畑貞一
Vocal: 笈田敏夫

昭和の良き時代、新宿歌舞伎町にあった“不死鳥”はこぢんまりとしたピカイチのクラブだった。雰囲気は高級で客種も上等、藤家虹二はここに連日出演しており、司会者で世話人でもある志摩起夫氏とライブジャムセッションを企画した。生の演奏は、演奏者と聴衆との協同作業によって進行するものであり、ジャズは酒とタバコの中で生まれ、育ってきたのだから生き生きとしたジャズ本来のスピリットを取り戻すためには“不死鳥”のような場所こそ最もふさわしいと思ったのだ。御大、南里文雄はじめ大物ゲストが集結しリラックスムードの中デキシーを中心に演奏された。藤家は自分たちも飲みながらお客と一体、ライブならではのノリ良い演奏が出来たと語っていた。

白熱のライブ演奏にクラブ内は大いに盛り上がる
1972. 4. 28 昭和47年 新宿 不死鳥